

令和5年度第1回利根町地域公共交通活性化協議会 議事要約

【日 時】令和5年5月29日（月） 午後2時30分～午後3時50分

【場 所】利根町役場 会議室5-A

＜配布資料＞

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・会議資料1 利根町地域公共交通活性化協議会について
- ・会議資料2 利根町の公共交通の現状について
- ・会議資料3 利根町地域公共交通計画について

【出席者】伊藤委員，川上委員，塚田委員，小針委員，村野委員，板谷委員，仲野委員（代理出席 玉村様），寺田委員（代理出席 山浦様・随行 長谷川様），櫻井委員，早川委員，赤根委員，飯野委員，新井委員，花嶋委員，服部委員，勝村委員

【欠席者】澤畠委員，海老澤委員

【事務局】政策企画課：布袋課長，渡辺課長補佐，生井係長，五十嵐主査

1 委嘱状交付

2 町長あいさつ

3 委員，事務局紹介

4 利根町地域公共交通活性化協議会について

事務局

※資料に基づき説明（利根町地域公共交通活性化協議会について）【資料1】

5 議事

事務局（司会）

それでは，次第5「議事」に移りたいと思います。議事につきましては，本来，会長が総理することになっておりますが，会長決定までの間，事務局の方で進行させていただきたいと思っておりますので，よろしく願いいたします。

議事の（1），会長，副会長の選出についてでございます。利根町地域公共交通活性化協議会条例第5条第2項の規定では，会長及び副会長は，委員の互選となっております。もし，自薦される方がいらっしゃいましたらお願いいたします。

※自薦者なし・・・

委員

事務局案はありますか。

事務局

はい、それでは事務局案をお示しいたします。

*事務局案 会長に 流通経済大学の板谷教授
副会長に 海老澤教育長

ご異議がなければ、拍手を持ってご賛同願います。

板谷先生、お席を前の方にご移動くださるようお願いいたします。

では、会長となられました板谷先生一言ご挨拶をお願いします。

※板谷会長挨拶

ありがとうございました。

それでは、議事進行を板谷会長にお願いしたいと思います。よろしくようお願いいたします。

会長

はい、それでは、議長を努めさせていただきます。早速議事を進めたいと思います。

「(2) 利根町の公共交通の現状について」事務局よりご説明をお願いします。

事務局

※資料に基づき説明 (利根町の公共交通の現状について)【資料2】

会長

ご説明ありがとうございました。ご意見ありましたお願いいたします。いかがでしょう。

事務局

よろしいでしょうか。

会長

お願いします。

事務局

これからの2ヵ年かけまして、計画を作っていくわけなんですけども、その中で、どうしてもこの路線は必要だとか、どのようなバス、コミュニティバスを運行してもらいたいとか、こういうふうに変更してもらいたいとか、そういうようなことをですね、この協議会の方で話し合っていたらいいかと思っています。これを今後話し合っていくながら再編するようなイメージの計画になってくるかと思っています。民間のバス会社もございますし、タクシー会社もございます。

料金体系もいろいろございますので、その辺のバランスを含めまして、会議の中でですね、いろいろご意見をいただければありがたいなと考えているところでございます。

会長

はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

私は質問はないわけではないんですが、おそらく、町内の皆様ご存知のことが多いので、予定通り3番をご説明いただいてからまとめて伺おうかと思います。

他にも何かありましたら遠慮なく手を挙げていただきたいと思います。

委員

はい。

会長

はい、お願いします。

委員

先ほど説明がありました9ページの福祉バスの福ちゃん号ですが、コロナの前には1万人の乗客があったものの、現在は3,000人減って7,009人ということなので、さっきのルートを見ても、元々は福祉センターに行くバスで始まったものなんですけども、それが結局ランドローバーとか、実際に必要な、そういった方にシフトしたと思うんです。これはやっぱり今から5年間の計画であるということなんで、福祉バスもやっぱり見直しをした方が良いと思っていて、福祉課の課長さんいらっしゃると思うんですけど、これもやっぱり現状で十分なのか調べていただいて。

例えば本当にデマンドタクシーが3台になったので、もう本当受益者負担で全部デマンドタクシーでもいいのかなというようなことを検討すべきじゃないのかなと。そうするとやっぱりね、高齢者が多いんで、そこまで定住距離は玄関まで来ていただいてまた送っていただく、そういう方向性もやっぱり僕らは考えるべきじゃないかなと思います。以上です。

会長

はい。ありがとうございます。福祉課長、いかがでしょうか。

委員

はい。そうですね。

福ちゃん号、福祉バスについては、保健センターの方で管轄されているところなんですけども、こちら当初は保健福祉センターに行くツールとして運行を開始したということで、それがだんだん時代とともにその目的を変化して、買い物にも使ってもらってる方っていっぱいいると思いますんで、そういったところも踏まえて、交通計画の策定に向け、この協議会の中でこういった方向性が一番いいのかっていうのを、皆さんの話をいただいて、福祉バスをなくしてデマンドをもっと拡大するやつとか、そういう意見で、いろいろ交通計画に載せていただければいいのかなというふうに思っております。

会長

はい。どうもありがとうございます。

これは結構重要な話でして、外から見ていると、福祉バスに関してはやっぱりその料金が無料というのはご利用がすごくしやすい交通機関であると思うんですが、一方で、無料でありながら、年7,000人で、コロナ前で1万人とかだとすると、1日に乗ってどのぐらいでしょう。

100人くらい。30人。実際はそれぐらいですよ。町民1万何人いる中で、30人の方のために、無料だとかかなり実はコスト的には良くないので、このあたりをどう考えるかということとして、福祉課さんとしてはこれまでそういう経緯でやってきたものなので、そういう経緯で続けていくということもあるのかなと。

発展的に解消するっていう方法も含めて、この協議会の場で見直しをしてもっと利用しやすいものができるのであれば、そういう形に変えていってもいいんじゃないかと思っています。

ただ現状ではどうしたらいいのか。方針が立つわけではありませんので、いろいろ検討した上で決めていくというのが良いのではないかと思います。このあたりは、3番のご説明をいただいた後でもう一度質問、或いはご意見を交わしていただくのがよいかと思います。

他はいかがでしょうか。何かありましたらお願いします。

委員

はい。

会長

はい。お願いします。

委員

公共交通は、町民が使いやすいものを、積み上げるという点と、若者が転出していってるので、それを阻止するためのものを作らなければ、間違いなく当然なくなると思います。

会長

はい。ありがとうございます。

私は多分そこは一番議論のしどころだと思っておりまして、若者対策ということで言うとおそらく町の内外を充実していく。

その時に必ずしも病院などだけではなくて、それ以外の行きたいところに行けるようにするというのが大事なところだと思うんですが、費用も、或いはそのための、例えばバスを新しく増便するとか、車両も、或いは運転手が必要だということを考えられると、現実にどのくらいのことができそうかといったところまで考えての検討が必要になると思っています。

そもそもどのぐらい増やすか、どこに路線を伸ばせばいいとかそういったことも課題になります。

ぜひ前向きな議論をしたいと思ってますので、ご意見深く賛同してるという感じで、私はそうなんです、すいません。

ありがとうございます。

他いかがでしょうか。

そうしましたら3番もありますので、今後の計画の作り方等についてもご説明をいただいた上で、それで改めてご質問ご意見を伺うという形にしたいと思いますので、引き続きまして3番の利根町地域公共交通計画についてご説明を事務局からいただいて、また議論をさせていただきたいと思います。それでは事務局、よろしくお願いします。

事務局

※資料に基づき説明 (利根町公共交通計画について)【資料3】

会長

はい。ご説明どうもありがとうございました。

それでは3番、或いはこれまでの括弧2番も含めてですね、ご意見ご質問等ありましたら、挙手にてご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

委員

よろしいでしょうか。

会長

お願いします。

委員

ちょっとお伺いしたいのが、まずその計画を作るその全体的なフローの部分なんですけれども。まず今年度については、アンケート調査やヒアリングなどをこれから行うというふうに伺いましたが、いわゆるその計画そのものを、例えばそのコンサルちゃんを使って、素案作られるのかとか、そういった作業っていうのは今年度はやらないで、来年度ということではよろしいでしょうか。

事務局

はい、現在進行中です。プロポーザルの方を実施してるところでございます。です。ですのでコンサル業者の方の選定をおそらく6月中旬ぐらいに決定しまして、その業者の方と利根町の内容の方をいろいろ調整しながら、どの時期に何をやるっていうような具体的な部分を、今後お示しできるかと思えます。

委員

今回初めてということであれば、この調査は、協議会としての調査ということではなくて、町で調査をされるということではよろしいでしょうか。本来、協議会で事業をされる場合って、協議会でその事業計画を作って、それで予算も立てて、その中で協議会として今年度はこの事業を行います、というような形で作るかと思うのですが、そのあたりの町の組み立て方みたいなものっていうのはいかがでしょうか。すいません事務的な話で申し訳ないんですが。

事務局

本来は協議会を立ち上げて、協議会にすべてお金も流れまして、その流れの中で、選定していくっていう流れなんですけども、今回、当町につきましては、協議会を法定協議会として設置しまして、お金の流れに関しては基本的には町の決算でお示ししたいという部分もありますので、町の方で準備を進めるという形になっていきますので、その辺が違うところだとは思いますが。協議会は、条例で附属機関という形で作らせていただいています。

委員

初めてやられたんで確認をしました。協議会としてこういうことを町にお願いして、町の事業としてやりましたとか、そういうふうな形でご説明いただければいいのかなとちょっと感じました。その辺りだけ整理しておけば、事務的には整合とれるのかなというふうに思いました。以上です。

会長

どうもありがとうございます。

おっしゃることは重要でして、要は役場の中にある組織ではないですので、町として協議会に対していろいろ依頼してやっていただいて、この辺りの流れをやってる人は一緒なので、こういう形で進めていただけるといろいろ誤解が少ない、こういうことかなと思います。

委員

はい。

会長

ではお願いいたします。

委員

すいませんアンケート調査の内容についてなんです。

例えば、令和5年の主な業務の中で、町民アンケート調査は無作為による3,000人ということが記載されておりますが、これは今、路線バスとか、いわゆるデマンドタクシーとか福祉バスがございまして、この地区、文とか文間とか東文間とか布川と言う形になりますと、どうしても3,000人という規模というのは、調査の範囲としてかなり少ないんじゃないかと思うのですが。

最初はある程度、現状を皆さんが認識して、この空白区域をどのような形で改善していくか。

この辺については非常に大きなポイントになろうかと思うんですよね。

従ってこの辺を4つの地区で、3,000人が、私ほどのような形でピックアップされたのか、ちょっと定かでないんですが、例えば国勢調査の中で、生産年齢人口が何人、この地区4地区ありますけど、この中で生産人口が何人いて、その中の15歳以上どうのこうのっていう形の、いわゆるプロセスが必要なのかなと思います。

それによって、大分アンケートの調査の範囲がかなり細かくなると思います。細かくなると同時に、今度輸送手段がもうある程度絞り込まれる、この場所によってですね、例えば路線バスを扱う場合とか、一番人気のある無料バスを使用するとか、これは年齢によって大分違ってきますので。

この辺のところは最終的ないわゆる結論まで至るまでにはですね、ある程度細かいところまで、やはり住んでる人たちはみんな利根町の町民ですので、その人たちがどのような形で利用快適な空白地域の方含めて、利用しやすい環境づくり、これがやっぱり一番大切なことなのかなと思ひまして、私はこのデータは、やっぱり最初が肝心だろうとね、私の今までの経験の中で、データがラフになってしまうと、結果が良くない。

ある程度データは真実に近いデータであれば、アウトプットは非常に皆さんが利便性の高い、交通手段の選択に利用できるということになると思いますので、統計データをもっと信憑性のあるものを作り上げ、両論がベストかなっていうことをちょっと提案したいです。

会長

はい、事務局に関してはコンサルの選定後に多分、いろいろと協議をして、提案が多分ここに来ると思うんですけど、人数も今ここで3,000人となっておりますが実際どうするかも検討してから改めてのご提案になるかと思ひます。

それと、おっしゃることはすごくその通りだと思ひてまして、最初にきちんと現況が把握できないと誤った現状認識するので、誤った目的を設定してしまいますのでそうならないのはすごく大事なんですが、どういうふうにした方がよさそうですね。

統計的には、1万5,000人ぐらいの町で3,000人ぐらい抽出すると多分それなりに信頼性の高いデータが手に入るとは思ひますが、もうちょっと増やすかどうか、或いは、性年代別で必ず高齢者の人数もちゃんと確保して、若い人もちゃんと確保して、などが考えられますがいかがでしょうか。

委員

はい、そういうやっぱり生産年齢人口としてどのくらいいるのか、それとあと65歳以上の高齢の方で、免許返納の方もおられると思ひますので、その辺を含めてですね、今までの実績データと比較しながらベストな形のやっぱり細部計画が必要なかなと思います。

会長

はい。ありがとうございます。

どうでしょう。何か今考えてることがありましたら事務局お願いします。

事務局

はい、公共交通を利用されてる方に関しましては、公共交通利用者アンケートというまた別のアンケートを行う予定がございます。先ほど言われたように一応大体の希望は、他の計画を作る段階で、大体3,000人程度が大まかな、今まで作ってきました計画策定時のアンケートの人数なんですね。それが15歳以上ということで、ある程度年齢の区切りという形でやらせていただく予定です。人数的には、十分であると最初の計画の段階では、事務局としましては考えていたわけなんですけど、アンケートのやり方につきましてもいろいろありますので、これはコンサルの方と相談しながら、その辺は詰めたと思います。

委員

そうですね、是非とも、最初が肝心だろうと思いますんで、ベストの提案を一つお願いしたい。

会長

はい、データがとれるような調査方法というのを、よくご検討いただきたいなと私も含めて、いろいろ議論できるような形でご提案いただけるといいかなと思います。

今伺った限りだと、利用者にはなるべく全員アンケートをさせていただき、その上で公共交通を普段使っておられない方々にも、3,000人ということで、5人に1人ぐらいはご回答いただくという形でやっていただくと。

それ以外にワークショップ、それから事業者の皆様にもヒアリングをして実際どのぐらいの方がどこからどのぐらい乗っておられるか、ここまで確保したのを把握した上でやろうということですね。ぜひこの内容についても次回以降ご提案いただいた時に何かご意見ありましたらぜひお願いしたいということと、何を聞くか、あわせてですね、ご検討いただければと思いますのでよろしくをお願いします。

ありがとうございました。他、いかがでしょうか。

委員

はい。

会長

お願いします。

委員

すいません。

確認なんですけども、先ほど事務局から、利用者についての話が福祉バスと合わせてありましたが、福祉バスが7,000人で、ふれあいタクシーが7,818人の合わせて約1万5,000人のうちから利用者のアンケートを実施すると話をされたと思うんですけど、そのほかに、3,000人をまたアンケートすると言っていましたけどそれはコンサルタントからの案でしょうか。

いろんな会議出てますけども、コンサルタント会社がアバウトでねやっぱね、800万ですよ、お金、都市計画審議とかね、そこで出てますけども、そこんことをもうちょっと密に、役場の方が親身になって本当によろしくお願いしたいなと思います。以上です。

会長

ありがとうございました。他、いかがでしょうか。

委員

はい。

会長

お願いします。

委員

コンサルタントというのは必ずしも必要なんでしょうか。

会長

そうですね、そのご質問には私が答えます。

もし役場職員で計画策定業務を行う場合、何をするのかというと、先ずアンケート調査などを、要は役場の皆さん総出で1日配っていただいて、回収して、中でアンケート全部を回収したものを、電子化してまとめてっていうなことをやっているとは多分、とても大変で、時間的な方でどちらかというと、その部分があるので、お金で解決できる部分は専門の方に外注して出していただいて、その結果をどうすれば、もちろんその前の段階で事務局できっちりコントロールしていきましょうという形でやるのがおそらく効率がいいということで、多くの市町村でそういうやり方をしています。

ただ、おっしゃるように、100%必ずコンサルタント業者を入れなければ計画ができないものではありませんので、事例で全部やってる自治体もあります。

ここの規模ですと、私はコンサル入れたほうがいいと思っていて、それはなぜかということ、今までのバス路線のあり方のままで良さそうだと、ちょっといじればもっといいものができそうだったという感じじゃないんですけど、私見るに結構変えなきゃいけないと思ってました。

そうするとですね私もそれなりに勉強してるつもりではいるんですが、いろんなところの知見をお持ちなんですねコンサルタントの会社。

いくつかだけではなく、たくさん市町村とお仕事されているので、物件を持っておられて、いやそれは表には出さないけど事前にお話すると、教えてくださったりしますので、そういったところの経験を伺いながら、自分たちでやっていく方がおそらく効率的にいいものが出来るんじゃないかと私は思っております、使ったらいいんじゃないですかねと私は思った次第でございました。

なので、もしよければそこはぜひ、いい会社を選ぶ用意、それはプロポーザルで。兼ね合いですよね。きちんと事前にこういう計画を進めたいと思っておりますというものを会社に出していただいて、それを見て選定していただく、してますんで、生かしていただきたい。

中身はよければ私も拝見して、何かいい加減にやっていたらそれはそれでまたきちんと言いますし。ちゃんとやってくださっていただければもちろん良いものに入れ替えさせるよう提案しても良いかと思えます。

事務局

はい、例えば、プラスアルファで、ウェブでやるアンケートなどえお提案している事業者もあります。それが本当に重要な問題ですので、基本的には公共交通の計画についてオールマイティな業者の方はまずは必ず総合交通計画を作っている実績のある業者でないと、ちょっとうちの方の指名の方には上げられないっていう形で縛りをかけてます。現在はある程度事業実績のあるところが事情、申

し出をしていただいているところでございます。

委員

私も利根町で17年18年前にある組織団体の立ち上げ、そのときに町民アンケートをやったんですね。それが今おっしゃった3,000人ぐらいのアンケートで、担当が10人ぐらいで毎日夜6時ぐらいから10時ぐらいまで集計して結果出して全部で1ヶ月かかりました。

それ、結局職員がやるとその時間、それに取られるわけですね、通常の役場業務がそこでおろそかになってはいけないと思いますし、そういう形でちゃんとした、おっしゃるように、業者を選定していただいて、ということでしたらそちらの方がより効率的に物が動くのかなというふうには思います。自分の経験から、実情を伝えさせていただきました。

会長

ありがとうございます。実際かなり多いので、大変だと思います。

私も学生にアンケートをとらせるのですが、とても大変です。全部自分でやるように伝えるんですけど、かなりそれなりにまとめるのに時間を要する。

これがやっぱり専門でやられてる事業者さんを見てみますと、早くできるところがあるんだというのは、要は、委託していただくとわかるかな、と思います。

はい。他いかがでしょうか。

議員

よろしいですか。

会長

はい。お願いします。

委員

要望といいますか、せっかく名簿で社団法人茨城県バス協会専務理事の方なんですけれども、利根町だけのバス、それだけでなく茨城県全体でどういった方向性があるのかっていうことをやっぱり私は聞きたいんですよ。例えば境町とか高萩市は、A Iバスを運行してますんで、そういったところなんかを聞きたいんで、もしできればバス協会の方にも代理出席なども含めてなるべく出席していただきたいなと思いますのでよろしくお願いします。

委員

そうですね。我々もやっぱり参考になるので、ぜひこれは協会には出席いただきたいですし、利根町からも強く働きかけをしていただきたいです。

会長

ご提案ありがとうございます。

私ですね、具体的には埼玉県内の市町村それから千葉県の茨城県内の合計6ヶ所で仰せつかってるんですが、実際出席されないのは茨城県だけじゃないすかね。

埼玉も千葉もですね、毎回必ず出席されて、もっと言うと必ず意見をおっしゃるんです。

私も必要だと思ってますので、ぜひお越しいただいて、コメントを他との比較でいろいろおっしゃっていただけたところもあると思いますので、もしよければですね日程調整の際に、もしお忙しくてなかなか日程が合わないというところあると思います。

ぜひお声がけいただいて、それこそ2回に1回ぐらいでも来ていただけると大分違うと思います。他、いかがでしょうか。計画以外のところでどこでも大丈夫ですんで、聞いたことありましたらぜひお願いいたします。いかがでしょうか。

委員

よろしいですか。

会長

はい。お願いします。

委員

計画以外のところになってしまいうんですけれども、私の方が福祉課に参りまして時間が浅いもので勉強させていただけたらと思うんですけれども、大利根交通さんの整理バスにですね、例えば車椅子を利用されてるかかベビーカーを利用されて乗車するときに、運転手さんが支援していただけるのか、あと写真で見ると大分低床になってるんで、断層も少ないと思うんですけれども、何かそういうスロープっていうのも用意されてるか、あと、事前に別にこの何時何分に乗りますよ、みたいなのを先に言っといた方が非常にスムーズになるとか、そういったところをちょっと教えていただければ。

会長

はい。ありがとうございました。大利根交通さんいかがでしょうか。

委員

はい、弊社でも、例えばもえぎ野台ですとか、いろいろ何か所か利根町でも車椅子を利用されてる方いらっしゃるしまして、現状といたしましては、各利用者が事前にご連絡いただいているパターンが多くて、その場合ですとその担当乗務員に事前に伝えることができますので、到着するときに遅延なく、輸送する委員を含めて、事前にそういうことを把握していただけるととても助かります。

また、弊社のバスですが、今100%のステップ、またはワンステップのバスです。おそらく各バスに設けてあります。もし基本、スロープ設置するにあたり乗務員を1回、運転席から離れて、その場の設置になりますので、その時のサポート必要なお客様でしたら、乗務員がそこはサポートしてやっております。あと、ノンステップの下のノンステップのフロアですね、いわゆる階段がないフロア、平面のフロアが、椅子が畳めるような形状になってまして、そこに車椅子の設置スペースを設けてありますので、全車備え付けがございます。

委員

ありがとうございました。

会長

はい。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員

はい。

会長

お願いします。

委員

令和5年度のアンケート、公共交通利用者に対するアンケートと公共交通事業者に対するヒアリングということなんですけど、これ事業の順序としまして、公共交通利用者に対するアンケートが上がってきて事業者がそれに対して対応ができるかどうかとかそういうアプローチになるんでしょうか。それとも現状、航行の時間、例えば車線に関しては本数が少なくなってるのはこういう事情があって、少なくなってますが、弊社が最初にコンサルないしは利根町さんの方にお伝えすることから始まるのか、順序ってのはどういう感じで進められるんでしょうか。

会長

はい。ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。

事務局

まだ全く業者の方と打ち合わせができてない状況で、ちょっと細かいところまではわからないんですけど、まずは現状把握のための事業者へのヒアリングもあるかなとは思いますが、アンケートを取った段階で、こういうふうに改善できるのかできないのかかっていうのが、ちょっとヒアリングのあとにあるのかどうかは、コンサルに確認してみないとわからない状況ですのでそういうわかり次第、ちょっと早急にお知らせしたいと思います。

委員

よろしくお願いします。ありがとうございます。

弊社としても独自で利用者になかなかアンケート取る機会がなくて、こういう機会を設けていただくのは大変こちらとしても好ましいことですし、それに出来るだけこたえていきたいなと思っておりますので、お願いします。

会長

はい。どうもありがとうございます。

ヒアリングという形で書いていただいているんですが、事業者様と、特に役場の事務局、ご担当の皆様との間で、こういう公式の場でないところででもですね、必要な意見交換していただいても良いけども、その一環とらえていただくのが私は良いと思ってますし、その中でアンケート等についても意見をいろいろ出していただくのは問題ないと思いますので、前段、自分たちで聞きにくい質問なんかも含めて見られるようであれば、入れるというのも当然ありだと思います。

よろしくお願いします。他はいかがでしょう。

委員

よろしいですか。

会長

はい。お願いします。

委員

今後進めていかれる中でお願いというか、もしできるのであればということなんですけど、当然町の

町民の方の移動ということなので町内の交通手段どうするかっていうところに、その話が中心になるのは論を待たないところだと思うんですが、一方でこれまでニュータウンの成田線とか常磐線に出ていくっていうアクセス数のことを考えると、どうしても我孫子市とか取手市との関係ってのは切って切れないかなど。そういう広域的な人の流れの部分も踏まえつつ、ちょっと例えば我孫子市さんとか、取手市さんなんかともちょっとお話なんか意見交換なんかをしていただいて、先方のお考えとかも踏まえながら町としての要望なんかもお伝えして、そこは広域路線として、路線を維持していくとか、よりよいものにしていくっていう、そういう作業なんかは、ぜひやっていただければありがたいなと思っています。

また、成田線なんかは、確か利根町さんも入ってたんじゃないかと思うんですけど成田線の何か協議会か何かのメンバーになっていて、おそらく要望とかされてるんじゃないかと思うんですよね。ですので、そういう部分なんかもうまくそういう活動をやってますとか、そういったことをひよっとしたら知らない町民の方もいらっしゃるかもしれないので、そういったところで自分達の取り組みをPRしてくっていう場でもあるかと思うので。

そういうところは積極的に挙げていって、計画作っていく中でいわゆる町外への移動についてはこういう形で我々やってますと、入れていければいいのかなと思います。

あと、そこを考えるのは、並行してそのまちづくりの視点っていうんですかね。

利根町さんを、今後その例えば10年後20年後どういうふうなまちづくりにまちづくりって一言でね言っちゃってももう20年30年かけてこうやっていくようなものではあるの。

その20年後とか30年後の利根町のあるべき姿みたいところを意識するとこういう形で、例えば5年先を見せるとこのぐらいとかみたいところはちょっと難しいかもしれないんですが、将来的にはこういうふうにしていきたいぐらいの部分になっちゃうかなどは思うんですが、何かそういうところも触れられると良いのかなというふうに思いました。以上です。

事務局

ありがとうございます。我孫子市の方は、先ほど言われましたように成田線の活性化推進協議会と同じメンバーに入っております、ともにですね、活性化に向けた、いろいろJRの駅で清掃活動をやったりとか、いろんな活動、あと要望なんかもし出しに行ったりとか、やらせていただいております。その中で担当事務局の方ですね、成田線の方の利根町の方の交通の便の話だったりとか、今回の計画を立てる話とかっていうのも、我孫子市さんの方には一応お伝えはしてありまして、いろいろ協力していただけるっていう旨の話はいただいているところでございます。

その後ですね、取手市さんの方につきましてはなかなかそういう場がないという状況なんですけれども、当然こちらの計画を作る段階では、龍ヶ崎市さんも含めてですね、近隣の市町村の方には話をさせていたきたいと思っております。

あと、まちづくりの件につきましては、確かにおっしゃる通りですね、利根町は高齢化がすごく進むという町なんですけれども、移住定住を進める上でも、やはり公共交通があれば、将来的にももう少し利用客が増えて、移住定住につながられるのかなという部分もありまして、実は今後、同じ公共交通計画を策定する段階で、振興計画の後期基本計画を同時期に策定することとなっております、その中でですね、両輪というわけではないんですけれども、一緒にそれを組み入れて将来的なまちづくり計画を作っていくと事務担当レベルでは、考えてるところです。

委員

将来像はどうしてもアバウトなものになってしまうんですけど、先は読めませんので、まずは現状こうしたいっていう形になると思うんですけども。すいませんなんかちょっと欲張り過ぎましたけど。

会長

大変貴重なご意見どうもありがとうございます。他、いかがでしょうか。
よろしいですかね。

はい。では最後私から数点だけお伝えしたいと思います。先ず、協会の皆様から貴重なご意見をいただきましてそれぞれ基本的にはその通りでぜひという内容が多かったと思っております。

私からはですね、今回計画を立てようという、モチベーションを高くしていただいたきっかけというか、法律の改正などもありまして、いろいろ公共交通関連の取り組みが出来るようになり、それに対して十分かどうかは別にして予算も拡充していただいている、国或いは県も含めて、そういう支援の枠組みができていますので、それは活用していくということも考えながら、その中で言うと、まちづくりの交通を考えるっていうのは町の中できちんと移動できるようにするというのと、先ほどお答えの中で申し上げて、町の外にきちっと行けるようにすると、外の方が中に来る時にも来やすいようにするっていうのが大事なんですが、その意味で大利根交通さんの各路線というのが利根町にとっての幹線だと思っております。現状、本当に最低限のサービスを維持していただいて大変ありがたいところではありますが、町としてはおそらくもう少し増やしたい、同じぐらいの便数をもう少し遅い時間まで或いは早い時間からやりたい、こういうのが多分あるとですね、こうしたものに対する補助というのは今までもありまして、このあたりについてはぜひ、ちょっと年度末に少し県庁の方でも少し私がお話しに行った経緯があるんですが、少しお話をさせていただいて、補助を入れられるようであれば入れてでも、幹線としての役割を高められるようなそういう路線にして欲しいなと私としては思っています。

それは事業者さんにとって必ずしもプラスになるとは限らなくて、要するにその役場ときちっと連携をして、このぐらいの流れで行きましょうとか、相談してからやらないといけないとかっていうのがあるんですが、やっぱりその使う立場で考えると、例えば毎時、0分と20分と40分20分に一本ずつバスがあるのが分かっているならば、利用しやすいわけです。或いは0分30分、30分一本でも大丈夫。

その路線はどこまで行くかという町の中で終わるのではなくてきちっと始まっていきますとこういう感じになってくれると、やっぱり何て言うかアピールしやすいといえますか、そういう路線は今後も町として守っていきますというふうにおっしゃっていただけると、それなら外に行かずともずっとここに住めばいいんじゃないかというふうに思えるようになりますと私は思っております。可能な限りそれに近いサービスになるように、ご検討いただくとありがたいと思っております。

それともう一つがですね、町の中を移動するニーズって結構あるんですが、ただ、これまでも数字を見ていてもおわかりのように、1日当たり1万5,000人いて、そういうのを実際に使われている方というのはおそらく100人単位です。この方々が本当に満足して移動されておられるかということと、既存のサービスではうまく利用できないために、あまり外にお出かけされていない高齢者の方がいらっしゃるかどうか、このあたりをアンケートできちんと聞いてですねその方々に少しでも外に出していただけるようなサービスを実現させていくのが今回の計画の大事な役割ではないかと私は思っております。

そのためにはですね、おそらく乗り合い型っていうんですかね、バスを決まった時間に1日数本、まわしていくという形よりは、行きたい、移動したい時間に移動したいところに、なるべく行けるように、それに近い形のサービスが望ましいと思います。一方で、それを実現するにはすごいお金も手間もかかりますので、回数を制限したり、年齢を制限したりいろいろ考えなければいけないですが、そういった制限を入れてでもですね、使えるサービスというのを拡充していくのが良いのではないかと私は思っています。

これは今事務局と何か相談した上では全くありませんので、私が思っているところではあるんですが、

そういうニーズがどれくらいあるのかというところを、まずきちんと年度の最初にきちんとアンケートそれからヒアリングとしてですね、どのくらい必要とされているかというのをしっかり把握した上で、それに合ったサービスを計画の中で提案し、実現させていくようにするというのが、この協議会の大きなミッションであると思っております、そのためにお住まいの皆様の実感に即したご意見、それからご専門の方々からのご意見、本日警察或いは社会福祉協議会の方から特にご発言はなかったんですが、今後路線を例えば変えるとか、或いはその乗り降りに際して気をつけなければいけないこととか、そういったことを考えますとやっぱりその道路関連、それからそれ以外のことも含めてですね、お力をいただく場面があるかと思えます。

もちろん他の皆様にもご意見、ぜひ1回以降もですね、忌憚ないご発言をいただきまして、良い計画をつくれるようにお知恵をいただければと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

はい。私からはあれでいいと思っておりますので、議事の方特にこれで何か進めていこうということではないので、質問がなければこれで終わりにしようと思えます。よろしいでしょうか。

はい。どうもありがとうございます。

議事の3番まで終わりましたので、事務局にお返ししたいと思いますよ。

事務局

板谷会長ありがとうございました。

次第の6 その他でございますが、何かございますか。

※5 閉会

それでは、以上もちまして、「令和5年度第1回利根町地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。

皆さま、お疲れさまでございました。

※終了